



2026 年6月 15 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 デ ジ タ リ フ ト
代 表 者 名 代 表 取 締 役 百 本 正 博
(コード番号:9244 東証グロース)
問 合 せ 先 上 級 執 行 役 員 C F O 久 保 聖
(TEL 03-6427-1866)

統合 BI ツール「LIFT Engine」の開発ストーリーおよび主要機能を公開

～データをもっと、人の言葉に近づけたい。ブラックボックスだった「施策の文脈」を、すべての関係者と共有できる時代へ～

企業の事業と未来を動かす共挑型マーケティングパートナーである、当社が開発する統合 BI ツール「LIFT Engine (リフトエンジン)」の詳細機能および開発背景を公開いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

当社は本ツールの提供を通じ、顧客企業におけるマーケティングデータのブラックボックス化を解消し、AI と人間が共生する新たなマーケティング支援のあり方に挑戦してまいります。

記

1. 本件の概要と開発の背景

デジタルマーケティング市場において、データ運用の重要性が増す一方、多くの企業で数値レポートを見ても、「なぜその結果になったのか」がわからない、担当者が変わるたびに施策の文脈がゼロリセットされる、過去の成功・失敗が次の施策に活かされず、同じ試行錯誤を繰り返している、過去施策の結果に基づく分析に留まっているため新たな施策にトライしづらい、といったデジタルマーケティング施策の成果に向き合う方が抱える課題が顕在化しています。これらはすべて、「データはあるのに、文脈がない」ことから生まれる問題です。

当社はこれらの課題を構造から変革すべく、「データをもっと、人の言葉に近づけたい。」という考えのもと、統合 BI ツール「LIFT Engine」を開発いたしました。AI を作業の代替としてではなく、人間の高度な「判断」を支える存在として位置づけ、方向性から施策・運用・結果までを一気通貫でつなぐ「ヒューマンセントリック (人間中心) な AI ドリブンエグゼキューション」を推進してまいります。

2. 「LIFT Engine」が実現する主な機能と価値

① 広告の“なぜ”が、ひと目でわかる

複数媒体・キャンペーン・クリエイティブの数値を一画面に集約。さらに AI が「なぜこの数値になったのか」を多角的に推察し、担当者が何時間もかけていた原因分析を、数分で引き出します。

② 仮説と結果が、自動で紐づく

「このターゲットに、この訴求で当たるはず」— 一定例会で立てた仮説を LIFT Engine に記録するだけで、その後の実績と自動で照合。勘と経験に頼っていた PDCA が、データドリブンに変わります。

③ 過去の施策が、次の成功確率を上げる

LIFT Engine に蓄積された施策の経緯・仮説・結果は、チーム全体のナレッジとして機能します。「過去に似た状況でどうアプローチしたか」を参照しながら次の施策を設計できるため、根拠のある提案が可能に。担当者の勘ではなく、組織の実績に基づいた意思決定が、施策の成功確度を高め、同時に試行錯誤のリスクを大幅に軽減します。

④ 広告主自身が、データの主役になれる

LIFT Engine では、広告主が自社のマーケティングデータを必要なタイミングで確認し、マーケティング戦略や施策の方向性、投資対効果について、当社コンサルタントと同じ情報をもとに議論できる環境を整えます。

「方向性は合っているか」「投資対効果はどうか」その問いを、タイミングを選ばず一緒に考えられる関係へ。それが、LIFT Engine が目指すパートナーシップのかたちです。

■ AI は、人間の判断を支える存在として

AI に作業を任せることが目的ではなく、AI を活用することで人間がより本質的な判断に集中できる環境をつくる—その思想が LIFT Engine の設計に貫かれています。

方向性から施策・運用・結果までの一連の流れを AI がサポートすることで、コンサルタントと広告主が「次の一手」をより確信を持って踏み出せるようになります。

デジタルリフトは LIFT Engine を起点に、AI を活用した新たなマーケティング支援のあり方に継続的に挑戦していきます。正解のない領域だからこそ、実験と学習を繰り返しながら、業界の常識を更新し続けます。

3. 開発責任者のコメント

青野 紳三郎 (LIFT Engine 開発責任者)

デジタル上のデータは、誰でも集められる時代になりました。でも、人間が何を、なぜやったのかは、意外と残りません。

施策の裏にある意図、定例会での議論、失敗から学んだ気づき—こうした「人間の判断の文脈」は、ほとんどの場合、担当者の中だけで完結して消えていきます。引き継ぎのたびに失われ、組織としての学習が積み上がらない。私はずっと、それをもったいないと感じていました。

AI が作業を肩代わりするほど、ヒトの価値は「手を動かすこと」から「判断すること」へ移ります。ならば、その判断をより確かなものにするために、過去の経験を組織の財産として蓄積できる仕組みが必要です。方向性→施策→運用→結果。この 4 つが一本の線でつながっていれば、次の一手を自信を持って設計できる。LIFT Engine はその「線」を引くためのツールです。

LIFT Engine は AI が起点ではなく、人間が起点であるという思想のもとで設計しました。AI は、人間の思考を代替するのではなく、人間の判断をより深く、より速くするために存在する。そう信じています。

過去の成功事例も失敗事例も、すべてが次の施策の礎になる。LIFT Engine を通じて、広告運用などのマーケティング施策における「試行錯誤のナレッジ」を組織全体で蓄積する環境をつくりたい。

それが私たちの目指す、「ヒューマンセントリック(人間中心)な AI ドリブンエグゼキューション」の実現です。

4. 組織体制の最適化に伴う沖縄オフィス機能の本社統合について

当社は、「LIFT Engine」の設計思想と同様に、社内組織においても、テクノロジーを活用することで人がより付加価値の高い業務に集中できる体制づくりを進めております。

近年、社内における業務プロセスの標準化、デジタルツールの活用、拠点間連携体制の整備が進んだことにより、場所に依存せず一定の品質で業務を遂行できる環境が整ってまいりました。こうした状況を踏まえ、より迅速な意思決定と機動的な事業運営を実現するため、沖縄オフィスの機能を本社(東京都渋谷区)へ統合することといたしました。

本統合により、当社は経営資源を「LIFT Engine」をはじめとするテクノロジー基盤の強化、および高度なマーケティング支援を担う人材への投資に集中してまいります。今後も、AI やデータを活用しながら、人が本質的な判断や顧客への価値提供に注力できる組織づくりを推進してまいります。

▼サービス詳細

<https://digitalift.co.jp/news/20260615/>

■株式会社デジタルリフト

【設立】2012 年 11 月

【代表取締役】百本 正博

【本社住所】東京都渋谷区神宮前 6-17-11 JPR 原宿ビル 4 階

【URL】<https://digitalift.co.jp/>

【事業内容】

マーケティンググロースデザイン: デジタル広告運用 / アフィリエイト運用 / SNS アカウント構築 / インフルエンサーマーケティング
コンテンツエクイティエンハンスメント: オウンドメディア構築 / サイト制作・運用 / 採用支援 / SEO・LLMO 戦略設計 / 業務効率化支援

データグロースアクセラレーション: ダッシュボード構築 / CRM 戦略立案・実行 / データドリブンマーケティング構築支援 / AI 活用型マーケティング支援

■ 本件に関するお問い合わせ

電話番号: 03-6427-1866

お問い合わせ URL: <https://digitalift.co.jp/contact/>

担当: 久保(クボ)